

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	社会学研究科
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
要素	教員に求める能力・資質等の明確化 教員構成の明確化 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. カリキュラムに対応した教員構成の適正化	→ S T比、年齢構成、性別比率、外国人教員数	B
2. 教員の教育研究活動情報の公開と共有	→ 教員の研究業績の公開者数、更新率	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

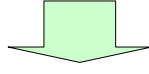
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目 11.0.1	(方針) 教員の研究業績の公開者数、更新率、S T比、年齢構成、性別比率などの観点から教員組織編制を構想し、定期的に検証し総合的に判断する。 (現状説明) 大学院研究科委員会において定期的に議論を重ね、現在は、前期課程の教員を増強して組織編成を行っている。
☆ 小項目 11.0.2	任用人事委員会、昇任人事委員会、採用人事委員会、教授会などを通して複層的にチェックされるシステムになっている。
☆ 小項目 11.0.3	教授・準教授・助教及び専任講師の任用に関する規定、ならびに教員選考基準、などの規定により、募集、採用、昇格は適切に実施している。
☆ 小項目 11.0.4	研究会例会などで教員間で情報を共有する等し教育の質を上げる取り組みをするとともに、研究雑誌への公表と周知、その他研究業績の周知および研究業績の相互公表を行いピアレビューを行っている。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目 11.0.1	新カリキュラム体制となり、それを受けた教員体制が実践され軌道に乗りつつある。
小項目 11.0.2	新教員の募集等の際し人事委員会が編成されるとともに教授会での詳細にわたる吟味がなされ効果が上がっている。
★ 小項目 11.0.3	任用人事等の際し任用人事委員会が編成されるとともに研究科委員会での詳細にわたる吟味がなされ効果が上がっている。
小項目 11.0.4	
その他	



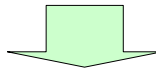
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目 11.0.1	
小項目 11.0.2	
★ 小項目 11.0.3	
小項目 11.0.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目 11.0.1	
小項目 11.0.2	
★ 小項目 11.0.3	
小項目 11.0.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目 11.0.1	
小項目 11.0.2	
★ 小項目 11.0.3	
小項目 11.0.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○大学院の教育、指導体制についての具体的な記述が望まれます。(新カリキュラム体制が軌道にのりつつあるとはどういう成果があがっていることを指していますか)

【学内委員】

○現状説明などの記述はおおむね明確です。

○教員組織の編成方針や整備は定期的に議論され、その結果が前期課程の教員の増強に結びついている点は大いに評価できます。採用・昇格人事についても適切に行われており、その点も評価できます。研究会なども定期的実施されており、今後さらなる教員の質向上が期待されます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 11.0.1 複数指導体制の下、複数の「研究演習」を前期課程において必修にすることにより幅広い観点から密度の濃い研究指導が可能となっている。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

11.0.0.S1	専任教員一人あたりの在籍学生数
11.0.0.S2	開設授業科目における専任比率
11.0.0.S3	専任教員の年齢別構成
11.0.0.S4	教員一人当たりの授業時間数
11.0.0.S5	本学出身の専任教員の構成比率
11.0.0.S6	海外の大学で学位を取得した専任教員の比率
11.0.0.S7	教員組織における実務家教員の占める割合(専門職大学院に限定)
11.0.0.S8	教員組織における女性教員の占める割合
11.0.0.S9	任期制教員(契約教員)の採用数
11.0.0.S10	実験実習指導補佐、教務補佐、授業補佐の採用数
11.0.0.S11	ティーチング・アシスタント(TA)の採用数
11.0.0.S12	契約助手の採用数
11.0.0.S13	実験助手の採用数
11.0.0.S14	リサーチ・アシスタント(RA)の採用数
11.0.0.S15	公募制による採用教員の数

<個別的な指標>
